

日時 令和2年7月13日(月)
授業場 2年A組教室

生徒 2年A組 男子16名 女子16名 計32名
授業者 眞島良太

1. 単元名

「第5章 近代の幕開け」

2. 単元の目標

- (1) 欧米諸国における産業革命・市民革命や開国とそれによって生じる影響を基に、欧米諸国が近代社会を成立させてアジアへ進出したことと国内の人々の生活が大きく変化したことについて説明することができる。
- (2) 工業化の進展と政治や社会の変化により近代化を進めた欧米諸国が市場や原料供給地を求めてアジアへ進出したことが日本の政治に影響を与えていることを多面的・多角的に考察し、説明することができる。
- (3) 近代の日本と世界について、世界の動きがどのようにして日本の政治や社会に影響を与えたか追究し、よりよい社会の実現に向けた自らの考えをもつことができる。

3. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
ア 欧米諸国における市民革命を基に、欧米諸国が近代社会を成立させたことを知る。 イ 欧米諸国における産業革命や資本主義・社会主義の誕生と列強の成立を基に、欧米諸国が近代社会を成立させたことを知る。 ウ 欧米諸国が市民革命や産業革命などを基に、近代社会を成立させて原料供給や市場を求めてアジアへ進出したことを知る。 エ 開国とそれによって生じる影響を基に、人々の生活が大きく変化したことを説明することができる。	ア 工業化の進展と政治や社会の変化により近代化を進めた欧米諸国が市場や原料供給地を求めてアジアへ進出したことが日本の政治に影響を与えていることを市民革命や産業革命、各国の近代化の経緯などを基に多面的・多角的に考察し、表現している。 イ 開国とそれによって生じる影響を国内の政治、経済の動きを基に多面的・多角的に考察し、表現している。	ア 近代の日本と世界について、世界の動きがどのようにして日本の政治や社会に影響を与えたかについて、主体的に学習に取り組もうとしている。

4. 単元のデザイン (全9時間)

時	○学習活動・学習内容	手立て	評価の観点		
			知	思	態
1	幕府はこれまでとっていた鎖国という政策をやめて、開国すべきか否か ○イギリスで議会政治が始まった背景を絶対王政とそれに伴う革命が影響していることを調べ、説明する。 ・絶対王政について確認する。 ・イギリスにおいては絶対王政に反発する2つの革命がおこり議会政治の基礎ができたこと、フランスにおいては絶対王政に対する批判が強まっていることを確認する。 【世界】革命による政治体制の変化や啓蒙思想の誕生	①パフォーマンス課題を組み込んだ単元を構成する 「あなたは江戸幕府で將軍を支える役人です。幕末に多くの外国船が日本にやってきて開国を求めてきました。先日、將軍から『幕府はこれまでとっていた鎖国という政策をやめて、開国すべきか否か』について意見を求められました。將軍への報告に必要な資料や材料をそろえて報告を作成してください。」 ②生徒の立場や思考、根拠を可視化することで生徒同士の対話を促す	ア		
2	○アメリカの独立やフランス革命によって自由や平等などの基本的人権を求める動きが生まれたことを調べ、説明する。 ・アメリカ合衆国の成立やフランス革命の経緯について確認する。 ・独立宣言や人権宣言が現代社会にも通ずる概念をもつことを捉える。 【世界】啓蒙思想を背景とした人権意識の向上		ア		ア
3	○産業革命がどのようにして生まれ、その後の社会にどのような影響を与えたか調べ、説明する。 ・イギリスで誕生した産業革命により工業化が進展したことを確認する。 ・産業革命により資本主義という経済の仕組みと社会問題により社会主義が誕生したことを確認し、人権の拡大につながったことを捉える。		イ		

	<p>【世界】産業革命と資本主義、社会主義思想の誕生</p>			
4	<p>○欧米諸国が列強として成立する背景を調べ、説明する。 ・アメリカ合衆国、ロシア帝国、イタリア、ドイツのそれぞれの改革について政治の変化や産業の変化と関連していることを捉える。 ○これまでの学習を踏まえて、パフォーマンス課題に最も影響を与えているものを一つ選び、自分の考えを整理する。</p> <p>【世界】近代化の進展と列強の成立</p>			ア
5 本 時	<p>○イギリスをはじめ欧米諸国がアジアに進出した背景とその影響を調べ、説明する。 ・インド大反乱とアヘン戦争にイギリスが関与しており、そこには原料供給地と市場の確保をねらいとしていることを追究する。 ・インド大反乱とアヘン戦争後のインドと清の社会について確認し、アジアに欧米諸国の植民地が広がったことを確認する。 ○これまでの学習を踏まえて、幕府はこれまでとっていた鎖国という政策をやめて開国すべきか否か、他者の考えに触れながら構築する。</p> <p>【世界】列強のアジアへの進出と植民地支配</p>		ウ	ア
6	<p>○外国船の来航と当時の国内情勢を踏まえて、幕府による改革が進んだこと調べ、説明する。 ・どのような国が日本に接近してきたかを確認する。 ・工場制手工業の進展や飢饉により人々の生活に影響が生じたことを確認する。 ・天保の改革や藩政改革が後の幕府政治に影響を及ぼしたことを捉える。</p> <p>【日本】外国船の接近と幕府や藩の国内政治</p>		エ	
7	<p>○開国により日本と欧米諸国の関係がどのように変わったのかを調べ、説明する。 ・日米和親条約を結ぶことで開国をしたことを確認する。 ・日米修好通商条約を結ぶことで治外法権や関税自主権といった日本にとって不利な条件を負わされたことを確認する。</p> <p>【日本】世界情勢を踏まえた対外政策</p>		エ	
8	<p>○開国によって生じた影響を調べ、説明する。 ・開国により輸出過多となり物価が上昇したことで国内に不満が生じたことを確認する。 ・幕府に対する批判が安政の大獄や尊王攘夷運動へとつながったことを追究する。</p> <p>【日本】開国による国内経済と人々の反応</p>		エ	
9	<p>○江戸幕府が滅びた原因を開国により生じた影響により人々の不安が影響していることを調べ、説明する。 ・開国によって生じた影響が人々の不安を生み出し、世直しの願いとして幕府の威信を弱める動きが生じたことを確認する。 ○パフォーマンス課題に対する自らの考えをこれまで学習したことを踏まえて再構築する。</p>			イ

5. 本時の展開 (5/9)

(1) 本時の目標

インド大反乱とアヘン戦争が起こった理由をイギリスにおける産業革命と貿易品目の変化を通して説明することができる。

(2) 本時の展開

学習活動 児童・生徒の姿 教師の働きかけ (○発問, △補助発問, □指示・説明)	手立て	【評価の観点】 ◇評価の内容 ・指導上の留意点
<p>1 課題把握 I</p> <p>○ (資料を提示しながら) 何をしている様子なのかな。</p> <p>・争っている様子 ・何かをめぐって戦争かな</p> <p>○ これは 1857 年にインドとイギリスが戦ったインド大反乱を表していますが、インドはどんな不満をもっていたのかな。</p> <p>・考える材料が足りなくてよくわからない ・イギリスが何かしたのかな</p> <p>課題 I インドがどんな不満をもっていたのか、この資料からどのように説明すればよいのかな？</p> <p>2 インド大反乱発生の背景を、資料を基に追究する。</p> <p>○ この資料からインドはどんな不満をもっていたといえそうかな。</p> <p>・イギリスは 18 世紀の中ごろまで綿織物をインドから輸入していたが、19 世紀に入るとインドに輸出する側になったことが関係していそう</p> <p>・銀もインドに入っていたものが、出ていくようになっていっていることが関係していそう</p> <p>○ イギリスが綿織物を買う側から売る側が変わったのはどうしてかな。</p> <p>・イギリスは世界で初めて産業革命が起こったから</p> <p>・産業革命によって蒸気機関が発明され、それを使って機械で生産できるようになったから</p> <p>○ ここまでを振り返るとインドがどんな不満を持っていたと説明できるかな。</p> <p>・インドの人々は綿織物を手で作っていたが、イギリスでは機械で作れるようになり、手で作るよりも効率よくできて、インドの人々は仕事を失ったからではないか</p> <p>□ 実際はどのような背景だったか、教科書で確認しよう。</p>	  	<p>・18 世紀中ごろはインド大反乱が起こっておらず、19 世紀前半はインド大反乱が起こる直前であることを確認する。</p> <p>・資料を比較して、綿織物の輸出入の向きと銀の出入りの向きが変化しているところに着目させる。</p>
<p>3 課題把握 II</p> <p>○ 同じ時期にイギリスに不満を持つ国がありました。(資料を提示しながら) 1840 年に清とイギリスの間でアヘン戦争が起こりました。清はどんな不満をもっていたのかな。</p> <p>・インドと同じような理由かも ・どんなやりとりがあったか知りたいな</p> <p>課題 II 清がどんな不満をもっていたのか、この資料からどのように説明すればよいのかな？</p> <p>4 アヘン戦争発生の背景を、資料を基に追究する。</p> <p>○ この資料から清はどんな不満をもっていたといえそうかな。</p> <p>・アヘンは麻薬なので、それが国に入ると国民がアヘン中毒になってしまうので不満を持つのではないか</p> <p>・銀の流れを見ると少しずつ銀の量が多くなっており、結果的にイギリスが儲けているのではないか</p> <p>□ 実際はどのような背景だったか、教科書で確認しよう。</p>	  	<p>【思考・判断・表現】</p> <p>◇資料を読み取り、考察したことをノートに記述している。(観察、記述)</p> <p>・18 世紀の中ごろの資料を提示する。</p> <p>・アヘンとはケシからとれるものであり、吸引すると人体に深刻な害を及ぼすことを確認する。</p> <p>・資料を比較して、アヘンと銀の流れに着目させる。</p> <p>・アヘンを輸出しているのはインドなのに、清がイギリスと戦争したのはなぜだろうかという疑問をもつ生徒を引き出す。</p> <p>【思考・判断・表現】</p> <p>◇資料を読み取り、考察したことをノートに記述している。(観察、記述)</p> <p>・教科書 pp.140L18-141L5 で確認する。</p> <p>・前時までの学習を踏まえて自らの考えや他者の考えを書き込んだロイロノートをもとに自らの考えを構築する。</p>
<p>5 これまでの学習を踏まえ、パフォーマンス課題に対する自らの考えを構築する。</p> <p>○ これまでの学習を踏まえて、幕府はこれまでとっていた鎖国という政策をやめて開国すべきか否か、自らの考えをまとめてみましょう。</p>		

■ 社会科におけるリーダーシップ・フォロワーシップの育成について

社会科における Ls/Fs 育成のポイントは「市民性・地域参画力」

＜社会科で目指す子供の姿＞

「リーダーシップ・フォロワーシップ」育成のため、社会科においては今年度、「市民性・地域参画力」の資質・能力の育成に焦点をあて、研究を進めていく。

社会科における「市民性・地域参画力」の中で、市民性は、本教科の目標にも示されている公民としての資質・能力と同義で示される場合が多い。公民としての資質・能力とは、「よく生きたい、こうありたいと自己実現を図っていく中で、他者とかかわりながら、社会のありようを自分事として引き受けて、考え、行動する能力や態度」（内山、2016）と解されており、未来を創り上げるためには、自分たちが生活する身近な地域や社会に参画しようとする態度が欠かせない。よって、市民性は本教科の目標であり、地域参画力は市民性の中に含まれる資質・能力と見做すことができよう。

市民性・地域参画力は、知識・技能の習得のみならず、思考力・判断力・表現力や学びに向かう力を相互作用的に高めしていくことで育成されていくものである。附属釧路小・中学校社会科では、これらの資質・能力を各領域や単元の中でバランスよく育成していく。

社会科における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

- ① パフォーマンス課題を組み込んだ単元を構成する
- ② 子供の立場や思考、根拠を可視化することで子供同士の対話を促す

① パフォーマンス課題を組み込んだ単元を構成する

パフォーマンス課題とは、「現実の世界（実社会・実生活）からの挑戦や問題（または模した問題）において、様々な知識や概念、スキルを総合して使いこなすことを求めるような複雑な評価課題」（三藤・西岡、2010）のことである。例えば、歴史的分野の二度の世界大戦と日本の単元において「日本はなぜ戦争の道へと進んでしまったのか、これからの日本や世界はどのような考え方や行動をしていけばよいのか」という評価課題が挙げられる。単元の中核を子供が探究していくためにパフォーマンス課題を単元に組み込むことで、個々バラバラな知識や概念、スキルが関連付けられ総合されて、他の単元の学習へも転移可能な深い理解へと到達することができる考えた。さらに、子供が現実の世界（実社会・実生活）と向き合っていくことで、社会のありようを自分事として引き受けて、考え、行動する能力や態度が育まれる効果も期待できる。

② 子供の立場や思考、根拠を可視化することで子供同士の対話を促す

各単元で学習を行うにあたり、資料や自己との対話で得た情報をもとに自分の考えを表現する必要がある。平成 29 年度に実践した本教科の研究では、資料提示の工夫から子供の新たな視点を引き出す教師の働きかけとして 3 点について考察した。その実践と検証を踏まえ、今回は、子供が生み出した問いや予想、立場や根拠などを書き込み、学習効果があると思われる場面で書き込んだ資料を子供に提示することに視点をあてる。立場や思考、根拠を可視化することで、意見の対立や、立場を導く根拠の差異が可視化されて対話を行う子供の姿が引き出されることができないのではないかと考える。その際に、「他者の立場や根拠が何を重視しているのかに気付き、自己の考えがより明確になる」（峯、2011）効果が期待できる。実際には、是非かのように立場が決まっている場合や、追究する視点が示されている場合等によって根拠や理由を問うのか、根拠や理由の下支えとなった視点を問うのかなど分野や単元によって指導方法は変わってくる。子供がそれぞれ調べた視点で考えを述べ合うプロセスの中で、リーダーシップ・フォロワーシップが発揮され、多面的・多角的な考察が可能となるような実践を行っていく。

引用・参考文献

- 1) 内山 隆、「共生への学び」、北樹出版、2016
- 2) 三藤 あさみ・西岡 加名恵、「パフォーマンス評価にどう取り組むか」、日本標準、2010
- 3) 峯 明秀、「社会科授業改善の方法論改革研究」、風間書房、2011

■本時で目指す生徒の姿

今日の授業における「市民性・地域参画力」を高めるためのポイント

本時では、『なぜ、日本はこれまでとっていた鎖国という政策をやめて、開国したのか』というパフォーマンス課題を基に、世界における政治・経済・産業・人権などの視点から追究する過程で、開国に最も影響を及ぼした事象について他者の考えを知ることでは自らにはない視点を得て、それを基に自らの考えを再構築しようとしている姿を引き出す。この姿が後に学習する国内における政治・経済の視点となり、多面的・多角的に追究しようとしている姿につなげる。

■本時のポイント

今日の授業における「目指す子供の姿」を実現するための手立て

①パフォーマンス課題を組み込んだ単元を構成する

本時では、『なぜ、日本はこれまでとっていた鎖国という政策をやめて、開国したのか』というパフォーマンス課題を設定することで、イギリスが列強として市場や原料供給地を確保するためにアジアへ進出したことを捉えさせて、幕府が鎖国の方針を変更するきっかけとなったと本時の学習とパフォーマンス課題を関連付けることで気づくようにする。

②子供の立場や思考、根拠を可視化することで子供同士の対話を促す

本時では、本時に至るまでに学習したことを基に、「これまで学習したことで開国に最も影響を及ぼしたのは何か」という問いを立てて、自らの考えを理由とともに記述させて、記述させたものを座席型に整理し、本時の中で「これまで学習したことで開国に影響を及ぼしたのは何か」と問うことで、他者の考えと自らの考えを踏まえて考えを再構築させていく。

『幕府はこれまでとっていた鎖国という政策をやめて開国すべきか否か』

インド大反乱やアヘン戦争はイギリスによってアジアで起こった出来事だ

インド大反乱やアヘン戦争が日本の開国とどのように関係しているのでしょうか？



幕府からすると日本の近くで欧米列強が進出してきただけから、次は日本がねらわれると考えたのかもしれないね



これまで学習したことで開国に最も影響を及ぼしたのは何でしょうか？

産業革命によって工業化が進んだことが影響しているのではないだろうか？

アメリカ独立宣言やフランス革命によって自由や平等が訴えられ、民衆の力が強まったことが欧米諸国の発展につながったのかもしれない

生徒の考えを可視化し、他者の考えと自らの考えを踏まえて考えを再構築

他の人はどんなことを考えているのだろうか？



なるほど、他の人はこういうことを考えていたんだね！

自分にはない視点だったけど、これを使って考えると見えてくるかも・・・

これまで学習したことで開国に影響を及ぼしたのは何でしょうか？



産業革命や市民革命を背景に政治や経済の面で発展を遂げた欧米諸国が列強として力をつける中で、市場を確保しようとアジアへ進出した。これに幕府は屈してしまっただけではないだろうか？

